

問 14. 将来、災害が発生した時に、貴市区町村内の自主防災組織の活動として行われると考えられるもの全てに○を、そのうち特に重要だと思うもの3つに◎を付けて下さい。（複数回答で集計、多い順）

	◎か○		◎		○	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
6. 被災者の安否確認	710	85.3	427	51.3	283	34.0
5. 避難所での作業(補助)	661	79.4	287	34.5	374	44.9
4. 炊き出し	651	78.2	212	25.5	439	52.7
3. 救援物資の仕分け・運搬	480	57.6	112	13.4	368	44.2
10. 物資や飲料水の在宅要援護被災者への配送	459	55.1	90	10.8	369	44.3
1. 被災家屋の片付け	457	54.8	67	8.0	390	46.8
14. 防犯パトロール	388	46.6	63	7.6	325	39.0
11. 要介護者の介護や移送	345	41.4	89	10.7	256	30.7
2. ゴミの運搬	334	40.1	20	2.4	314	37.7
7. 在宅被災者のニーズ調査	286	34.3	46	5.5	240	28.8
9. 被災者の傾聴(話を聞く)	284	34.1	33	4.0	251	30.1
8. 在宅被災者へのチラシ等配布	273	32.8	19	2.3	254	30.5
15. 交通整理	155	18.6	5	0.6	150	18.0
16. 消毒作業(補助)	139	16.6	2	0.2	137	16.4
17. うがい・手洗い指導	88	10.5	1	0.1	87	10.4
12. 保育	53	6.3	1	0.1	52	6.2
13. 入浴サービス	52	6.2	0	0.0	52	6.2
18. その他	47	5.6	22	2.6	25	3.0

問 15. 市区町村の自主防災組織等所管部局と市区町村社会福祉協議会との連携はありますか。

	度数	パーセント
1. 常時 (ほぼ毎月以上)	18	2.2
2. 時々 (年1回以上)	145	17.4
3. 必要な時に	395	47.4
4. 余り無い	231	27.7
9. 複数回答	1	0.1
無回答	43	5.2

問 16. 災害時に自主防災組織と社会福祉協議会等の災害ボランティアセンターが連携する必要性はあると思いますか。

	度数	パーセント
1. 非常にある	341	40.9
2. どちらかというところ	410	49.2
3. どちらかというところない	37	4.4
4. ほとんどない	8	1.0
9. 複数回答	1	0.1
無回答	36	4.3

**問 17. 災害発生時に貴市区町村では自主防災組織と社会福祉協議会等の災害ボランティアセンターの連携が行われると思いますか。**

	度数	パーセント
1. たぶん行われる	223	26.8
2. どちらかというも行われる	323	38.8
3. どちらかというも行われない	180	21.6
4. たぶん行われない	58	7.0
無回答	49	5.9

**問 18. 前の問で、たぶん行われる、どちらかというも行われると回答した場合に伺います。どのような連携が行われると思いますか。**（複数回答、多い順）

	度数	パーセント
1. 情報交換	401	48.1
3. 協働で復興支援活動（片付け他）	282	33.9
4. 協働で避難所運営	275	33.0
2. 同行して在宅被災者のニーズ把握	226	27.1
5. その他	17	2.0
無回答	816	98.0

<安全衛生>

**問 19. 自主防災組織に対して、安全衛生に関する研修を行っていますか。**（活動全般に関する研修の中で、活動上の安全衛生について触れているものがあれば含みます）

	度数	パーセント
1. 定期的に行っている（年1回以上）	15	1.8
2. 行ったことがある	40	4.8
3. 行っていない	717	86.1
無回答	61	7.3

**問 21. 自主防災組織活動の安全衛生確保のためのマニュアル等がありますか。**

	度数	パーセント
1. 自作の物あり	12	1.4
2. 外部で作成した物を入手している	12	1.4
3. その他	7	0.8
4. 無い	742	89.1
無回答	60	7.2

**問 22. 自主防災組織の活動に関して、保健医療専門職（医師、保健師、看護師、労働衛生コンサルタント等）の助言・支援の必要があるとあなたは思いますか。**

	度数	パーセント
1. 非常にある	136	16.3
2. どちらかというもある	428	51.4
3. どちらかというもない	93	11.2
4. ほとんどない	35	4.2
5. わからない	97	11.6
無回答	44	5.3

**問 23. 自主防災組織の活動に関して、次の機関・人に相談したことがありますか。**（複数回答）

	度数	パーセント
1. 市区町村の保健衛生部局	87	10.4
2. 地域の医師会	16	1.9
3. 保健所	9	1.1
4. その他保健医療関係者	4	0.5
5. 相談したことはない	672	80.7

**問 24. 自主防災組織に対して、安全衛生のための資材の整備促進として次のことを行っていますか。**（複数回答として集計、多い順）

	度数	パーセント
2. 資材の購入費補助	195	23.4
1. 資材の配布	96	11.5
3. 資材のリストを示す	36	4.3
4. その他	25	3.0
5. 特に行っていない	472	56.7

**問 25. 自主防災組織の活動中に不潔なケガをした場合、至急、破傷風予防接種を受ける必要があるとあなたは思いますか。**

	度数	パーセント
1. 必要	245	29.4
2. どちらかというが必要	292	35.1
3. どちらかというと不要	27	3.2
4. 不要	2	0.2
5. わからない	224	26.9
9. 複数回答	1	0.1
無回答	42	5.0

< 新型インフルエンザ対策 >

**問 26. 新型インフルエンザ対策に関する自主防災組織の活動について検討していますか。**

	度数	パーセント
1. 検討している	25	3.0
2. 検討していない	758	91.0
無回答	50	6.0

**問 27. 貴市区町村での新型インフルエンザ対策として、自主防災組織や自治会（町内会）等に行って頂く可能性があると思う活動がありましたら選んで下さい。**（複数回答、個人的な意見で結構です、多い順）

	度数	パーセント
3. 平常時の住民への普及啓発	337	40.5
2. 流行時に電話による健康状態の確認	149	17.9
1. 発熱者宅の玄関先への食料等の配達	58	7.0
4. その他の活動	6	0.7
5. いずれも自主防災組織等が実施する可能性は余り無い	380	45.6

<基礎的な情報>

**問 28. 貴市区町村の住民性として、行政に頼る割合について最も近いもの一つを選んで下さい。**

	度数	パーセント
1. 行政に頼る	233	28.0
2. どちらかという行政に頼る	513	61.6
3. どちらかという住民で解決	55	6.6
4. 住民で解決	3	0.4
9. 複数回答	3	0.4
無回答	26	3.1

**問 29. 貴市区町村の住民性として、住民相互のつながりの強さについて最も近いもの一つを選んで下さい。**

	度数	パーセント
1. 強い	70	8.4
2. どちらかという強い	503	60.4
3. どちらかという弱い	224	26.9
4. 弱い	12	1.4
9. 複数回答	1	0.1
無回答	23	2.8

## 市区町村社会福祉協議会ボランティア活動担当者への調査結果

パーセントは、回答した 801 社協に対する割合

< 普段のボランティア活動 >

### 問 1. 貴社会福祉協議会ではボランティアセンターの活動を行っていますか。

	度数	パーセント
1. 行っている	668	83.4
2. 行っていない	99	12.4
無回答	34	4.2

### 問 2. 貴社会福祉協議会に登録されているボランティア団体の数や人数はわかりますか。

	度数	パーセント
1. わかる	762	95.1
2. わからない	13	1.6
9. 複数回答	1	0.1
無回答	25	3.1

わかる場合の数

	度数	平均値	標準偏差
団体	743	44.4	80.2
人	722	1859.5	5166.3

### 問 3. ボランティアに対する要介護高齢者や障害者への援助方法の研修等を行っていますか。(複数回答)

	度数	パーセント
1. 独自に研修等を実施	262	32.7
2. 都道府県社協等の研修を斡旋	158	19.7
3. その他の方法	52	6.5
4. 行っていない	382	47.7

### 問 4. 傾聴ボランティアの養成を行っていますか。(話をじっくりと聞くことにより精神的な支援を行うボランティア) (複数回答で集計)

	度数	パーセント
1. 独自に研修等を実施	171	21.3
2. 都道府県社協等の研修を斡旋	112	14.0
3. その他の方法	54	6.7
4. 行っていない	478	59.7

### 問 5. 貴社会福祉協議会は、ボランティア活動の安全衛生に関する研修を受講または実施していますか。

	度数	パーセント
1. ほぼ毎年受講または実施	41	5.1
2. 受講または実施したことがある	128	16.0
3. ない	615	76.8
無回答	17	2.1

**問 6. 貴社会福祉協議会や登録ボランティア団体等は、高齢者や障害者に対して定期的に友愛訪問や安否確認の活動をしていますか。**（訪問して、元気であることを確認したり、話し相手になったりする活動）

	度数	パーセント
1. している	586	73.2
2. していない	195	24.3
無回答	20	2.5

**問 7. 貴社会福祉協議会は、災害ボランティア活動についての研修等を行っていますか。**（複数回答で集計）

	度数	パーセント
1. 独自に研修等を実施	297	37.1
2. 都道府県社協等の研修を斡旋	232	29.0
3. その他の方法	59	7.4
4. 行っていない	277	34.6

**問 8. 貴社会福祉協議会職員は、災害ボランティアに関する外部の研修を受講していますか。**

	度数	パーセント
1. ほぼ毎年誰かが受講	216	27.0
2. 受講したことがある	447	55.8
3. ない	132	16.5
9. 複数回答	2	0.2
無回答	4	0.5

**問 9. 貴社会福祉協議会では、防災人材バンクの整備を行っていますか。**（防災・災害対応活動ができる人材の把握）

	度数	パーセント
1. している	109	13.6
2. していない	683	85.3
無回答	9	1.1

<災害ボランティアセンターについて>

**問 10. 貴市区町村内には、常設の災害ボランティアセンターはありますか。**

	度数	パーセント
1. ある	57	7.1
2. ない	722	90.1
3. わからない	16	2.0
無回答	6	0.7

ある場合の数

	度数	パーセント
① 社協が開設	47	5.9
② NPOが開設	2	0.2
③ その他が開設	5	0.6
9. 複数回答	2	0.2

**問 11. 平成7年以降、貴市区町村で大きな被害のある災害に見舞われたことはありますか。**

	度数	パーセント
1. 災害救助法の適用あり	91	11.4
2. その他の災害	115	14.4
3. ない	577	72.0
9. 複数回答	2	0.2
無回答	16	2.0

災害救助法適用ありの場合の回数

	度数	平均値	標準偏差
適用ありの回数	87	1.3	0.7

災害救助法の適用ありの種別（複数回答で集計）

	度数	パーセント
① 震災	28	3.5
② 水害	65	8.1

**問 12. 貴市区町村内で災害が発生して災害ボランティアセンターが開設されたことがありますか。**

	度数	パーセント
1. ある	76	9.5
2. ない	711	88.8
無回答	14	1.7

ある場合の回数

	度数	平均値	標準偏差
開設されたことがある回数	70	1.2	0.7

ある場合の種別（複数回答で集計）

	度数	パーセント
① 震災	17	2.1
② 水害	50	6.2
③ 原油流出	4	0.5
④ その他	7	0.9

**問 13. 前問で、開設されたことがあると回答した場合に伺います。**

**災害ボランティア活動中に、医療機関・救護所での手当てが必要なケガや病気が発生したことがありますか。**

	度数	パーセント
1. ある	22	2.7
2. ない	72	9.0
3. わからない	28	3.5
無回答	679	84.8

ある場合の件数

	度数	平均値	標準偏差
ケガや病気の発生件数	19	3.0	4.3

**問 14. 貴社会福祉協議会の職員を、他地域の災害応援に派遣したことはありますか。**

	度数	パーセント
1. ある	382	47.7
2. ない	403	50.3
無回答	16	2.0

ある場合の数

	度数	平均値	標準偏差
災害応援に派遣の件数	353	2.0	2.3
災害応援に派遣した延べ人数	335	11.0	25.4

**問 15. 前問で、派遣したことがあると回答した場合に伺います。**

**派遣での経験を次のような形で共有しましたか。**（複数回答、多い順）

	度数	パーセント
1. 復命書	184	23.0
3. 報告書	125	15.6
2. 報告会	79	9.9
4. その他の方法	47	5.9
5. ない	50	6.2

**問 16. 貴市区町村の防災計画等で、災害ボランティアセンターに関する規定はありますか。**

	度数	パーセント
1. はい	310	38.7
2. いいえ	301	37.6
3. わからない	172	21.5
無回答	18	2.2

**問 17. 前の問いで「はい」とお答えの場合にうかがいます。**

**災害ボランティアセンターの立ち上げの時期の規定はありますか。**

	度数	パーセント
1. 災害対策本部立ち上げと同時や直後	85	10.6
2. 状況に応じて判断と規定	126	15.7
3. その他の規定	19	2.4
4. 規定はない	106	13.2
9. 複数回答	4	0.5
無回答	461	57.6

**問 18. 貴地域で災害ボランティアセンターが立ち上げられる場合、その主体はどこになりますか。**

	度数	パーセント
1. 市区町村社会福祉協議会	456	56.9
2. NPO等	2	0.2
3. その他	75	9.4
4. 未定	183	22.8
5. 立ち上げ予定無し	53	6.6
9. 複数回答	10	1.2
無回答	22	2.7

**問 19. 貴地域で災害ボランティアセンターが立ち上げられる場合、運営がうまく回ると思えますか。**

	度数	パーセント
1. うまく回る	25	3.1
2. どちらかというとうまく回る	237	29.6
3. どちらかというとうまく回らない	282	35.2
4. うまく回らない	106	13.2
9. 複数回答	2	0.2
無回答	149	18.6

**問 20. 災害ボランティアセンターの運営等に関して平常時から災害NPO等による支援を受けていますか。**

	度数	パーセント
1. はい	51	6.4
2. いいえ	717	89.5
無回答	33	4.1

**問 21. 災害ボランティアセンター立ち上げ時に、実質的な運営のリーダーシップを誰が担当するのが良いと思いますか。（多い順）**

	度数	パーセント
1. 市区町村社協職員	401	50.1
3. 市区町村職員	136	17.0
2. 都道府県社協職員	49	6.1
4. 外部の災害NPO等	24	3.0
5. その他	13	1.6
6. わからない	109	13.6
9. 複数回答	48	6.0
無回答	21	2.6

**問 22. 災害ボランティアセンターの運営に関するマニュアルはありますか。**

	度数	パーセント
1. 自作の物あり	133	16.6
2. 外部で作成した物を入手している	206	25.7
3. その他	66	8.2
4. 無い	370	46.2
9. 複数回答	7	0.9
無回答	19	2.4

**問 23. 下記の小地域単位での災害ボランティアセンターの立ち上げの予定はありますか。（複数回答）**

	度数	パーセント
1. 市区町村で1箇所のみ	167	20.8
2. 旧市区町村単位	32	4.0
3. 町内会単位	19	2.4
4. その他	51	6.4
5. 全く未定	526	65.7

問 24. 災害ボランティアセンターの立ち上げに関する訓練をしていますか。(単数回答、机上訓練を含めます)

	度数	パーセント
1. 定期的に行っている (年1回以上)	123	15.4
2. 行ったことがある	164	20.5
3. 今後計画している	135	16.9
4. 実施の計画はない	360	44.9
9. 複数回答	3	0.4
無回答	16	2.0

問 25. 市区町村または社会福祉協議会主催の防災訓練に災害ボランティアや災害NPOは参加していますか。

	度数	パーセント
1. 毎回参加している	153	19.1
2. 参加したことがある	229	28.6
3. 参加していない	227	28.3
4. 防災訓練は行われていない	161	20.1
無回答	31	3.9

問 26. 将来、災害が発生した時に、貴地域での災害ボランティアの活動として行われると考えられるもの全てに○を、そのうち特に重要だと思うもの3つに◎を付けて下さい。(複数回答で集計、多い順)

	◎か○		◎		○	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
1. 被災家屋の片付け	624	77.9	200	25.0	424	52.9
3. 救援物資の仕分け・運搬	596	74.4	130	16.2	466	58.2
4. 炊き出し	580	72.4	134	16.7	446	55.7
5. 避難所での作業(補助)	564	70.4	110	13.7	454	56.7
6. 被災者の安否確認	538	67.2	240	30.0	298	37.2
9. 被災者の傾聴(話を聞く)	518	64.7	116	14.5	402	50.2
2. ゴミの運搬	481	60.0	69	8.6	412	51.4
7. 在宅被災者のニーズ調査	476	59.4	183	22.8	293	36.6
10. 物資や飲料水の在宅要援護被災者への配送	473	59.1	84	10.5	389	48.6
8. 在宅被災者へのチラシ等配布	351	43.8	20	2.5	331	41.3
11. 要介護者の介護や移送	325	40.5	58	7.2	267	33.3
14. 防犯パトロール	191	23.8	6	0.7	185	23.1
12. 保育	182	22.7	5	0.6	177	22.1
16. 消毒作業(補助)	153	19.1	5	0.6	148	18.5
15. 交通整理	151	18.8	1	0.1	150	18.7
13. 入浴サービス	124	15.4	6	0.7	118	14.7
17. うがい・手洗い指導	108	13.5	0	0.0	108	13.5
18. その他	17	2.1	5	0.6	12	1.5

<地区活動等>

**問27. 平常時に旧市区町村や自治会などの単位での地区社協の組織はありますか。**

	度数	パーセント
1. はい	303	37.8
2. いいえ	482	60.2
無回答	16	2.0

ある場合の箇所数

	度数	平均値	標準偏差
箇所 (約)	294	21.6	46.4

**問28. 平常時の業務の中で要援護者の氏名等を把握していますか。** (複数回答)

	度数	パーセント
1. ほぼ全員を把握	108	13.5
2. 社協による直接サービス提供を把握	494	61.7
3. その他の把握	167	20.8
4. ほとんど把握していない	97	12.1

**問29. 前の問いで把握していると回答した場合にうかがいます。**

**次の中でほぼ全員または一部の氏名等を把握しているのはどれですか。** (複数回答、多い順)

	度数	パーセント
2. ひとり暮らし高齢者	584	72.9
3. 高齢者のみの世帯	424	52.9
1. 要介護認定者	391	48.8
4. 若年の障害者	154	19.2
6. 母子家庭	146	18.2
5. 難病患者	60	7.5
7. その他	77	9.6

**問30. 要援護者への援護等に関して、社会福祉協議会と市区町村の保健衛生部局との連携はありますか。**

	度数	パーセント
1. 常時 (ほぼ毎月以上)	110	13.7
2. 時々 (年1回以上)	53	6.6
3. 必要な時に	399	49.8
4. 余り無い	216	27.0
9. 複数回答	2	0.2
無回答	21	2.6

**問31. 社会福祉協議会と市区町村の自治会・町内会・自主防災組織等所管部局との連携はありますか。**

	度数	パーセント
1. 常時 (ほぼ毎月以上)	37	4.6
2. 時々 (年1回以上)	106	13.2
3. 必要な時に	373	46.6
4. 余り無い	264	33.0
無回答	21	2.6

**問 32. 災害時に災害ボランティアセンターと自主防災組織が連携する必要性はありますか。**

	度数	パーセント
1. 非常にある	519	64.8
2. どちらかというところ	245	30.6
3. どちらかというところない	11	1.4
4. ほとんどない	10	1.2
無回答	16	2.0

**問 33. 災害発生時に貴市区町村では災害ボランティアセンターと自主防災組織の連携が行われると思いますか。**

	度数	パーセント
1. たぶん行われる	278	34.7
2. どちらかというところ行われる	316	39.5
3. どちらかというところ行われない	116	14.5
4. たぶん行われない	52	6.5
9. 複数回答	2	0.2
無回答	37	4.6

**問 34. 前の問で、たぶん行われる、どちらかというところ行われると回答した場合に伺います。**

どのような連携が行われると思いますか。（複数回答、多い順）

	度数	パーセント
1. 情報交換	502	62.7
3. 協働で復興支援活動（片付け他）	436	54.4
2. 同行して在宅被災者のニーズ把握	361	45.1
4. 協働で避難所運営	196	24.5
5. その他	4	0.5

<ボランティアの安全衛生>

**問 35. 災害ボランティアの安全衛生確保のためのマニュアル等がありますか。**

	度数	パーセント
1. 自作の物あり	36	4.5
2. 外部で作成した物を入手している	54	6.7
3. その他	22	2.7
4. 無い	660	82.4
9. 複数回答	1	0.1
無回答	28	3.5

**問 36. ボランティアが使用するための資材として、社会福祉協議会で次の物資を備蓄していますか。**

（複数選択、わかる場合にはおおよその数量もお書き下さい。職員や被災者の使用のためのもは除きます。多い順）

	度数	パーセント
1. ヘルメット	85	10.6
3. 手袋	85	10.6
5. 救急医薬品	52	6.5
2. マスク	44	5.5
3. 飲み物	23	2.9
4. 食料	19	2.4
6. その他	115	14.4
7. 特に備蓄していない	593	74.0

わかる場合の数

	度数	平均値	標準偏差
ヘルメット (個)	70	23.7	26.2
手袋 (個)	66	141.6	180.9
医薬品 (セット)	46	6.4	11.2
マスク (個)	34	180.7	413.9
飲み物 (ml)	16	951.2	636.2
飲み物 (本)	17	101.5	113.1
食料 (食分)	17	314.7	526.8

**問 37. 災害ボランティアセンターにおいて、ボランティアの活動等に関して、保健医療専門職（医師、保健師、看護師、労働衛生コンサルタント等）の助言・支援の必要があるとあなたは思いますか。**

	度数	パーセント
1. 非常にある	353	44.1
2. どちらかというところ	336	41.9
3. どちらかというところない	14	1.7
4. ほとんどない	15	1.9
5. わからない	64	8.0
9. 複数回答	1	0.1
無回答	18	2.2

**問 38. ボランティアが活動中に不潔なケガをした場合、至急、破傷風予防接種を受ける必要があるとあなたは思いますか。**

	度数	パーセント
1. 必要	351	43.8
2. どちらかというところ必要	240	30.0
3. どちらかというところ不要	16	2.0
4. 不要	2	0.2
5. わからない	168	21.0
9. 複数回答	1	0.1
無回答	23	2.9

< 新型インフルエンザ対策 >

**問 39. 新型インフルエンザ対策に関する社会福祉協議会の活動について検討していますか。**

	度数	パーセント
1. 検討している	31	3.9
2. 検討していない	752	93.9
無回答	18	2.2

**問 40. 貴市区町村での新型インフルエンザ対策として、ボランティア団体やボランティア個人に行って頂く可能性があると思う活動がありましたら選んで下さい。（複数回答、個人的な意見で結構です、多い順）**

	度数	パーセント
3. 平常時の住民への普及啓発	218	27.2
2. 流行時に電話による健康状態の確認	129	16.1
1. 発熱者宅の玄関先への食料等の配達	65	8.1
4. その他の活動	9	1.1
5. いずれもボランティアが実施する可能性は余り無い	438	54.7
無回答	363	45.3

<基礎的な情報>

**問 41. 貴社会福祉協議会の圏域は市区町村の圏域と一致していますか。**

	度数	パーセント
1. 一致している	755	94.3
2. 市区町村合併後一致していない	5	0.6
3. その他の理由で一致していない	13	1.6
無回答	28	3.5

**問 42. 貴社会福祉協議会の職員数を教えてください。**

	度数	平均値	標準偏差
正規職員	764	20.2	30.4
非正規	672	15.9	27.2
非常勤	626	33.9	70.1

**問 43. 貴市区町村の市役所・町村役場には、市民活動やボランティア活動を支援する部局がありますか。**

	度数	パーセント
1. ある	459	57.3
2. ない	221	27.6
3. わからない	95	11.9
無回答	26	3.2

**問 44. 貴市区町村の住民性として、行政に頼る割合について最も近いもの一つを選んで下さい。**

	度数	パーセント
1. 行政に頼る	179	22.3
2. どちらかという行政に頼る	483	60.3
3. どちらかという住民で解決	82	10.2
4. 住民で解決	3	0.4
9. 複数回答	2	0.2
無回答	52	6.5

**問 45. 貴市区町村の住民性として、住民相互のつながりの強さについて最も近いもの一つを選んで下さい。**

	度数	パーセント
1. 強い	56	7.0
2. どちらかという強い	457	57.1
3. どちらかという弱い	230	28.7
4. 弱い	11	1.4
9. 複数回答	2	0.2
無回答	45	5.6

## 「平成20年8月末豪雨」現地調査報告

### 1. 被害及び対応の概要

平成20年8月29日未明に愛知県岡崎市において1時間雨量が観測史上1位を更新する146.5ミリに達する豪雨となった。被害は、愛知県岡崎市、名古屋市を始めとして、東海、関東、中国、東北地方の広い範囲に及んだ。そのため、気象庁は、8月26日から31日に発生した大雨を「平成20年8月末豪雨」と命名した。

この豪雨による被害状況（消防庁調べ、9月11日21:15現在）によると以下の通りである。人的被害としては、死者が岡崎市で2名（浸入した水により家の中で水死、水に流され行方不明となり後日遺体が発見）、愛知県一宮市で1名（用水路に転落）、その他、軽症者が愛知県で2名、千葉県で1名である。住宅被害は、名古屋市以外の愛知県で、全壊4棟、半壊1棟、一部損壊2棟、床上浸水1,124棟、床下浸水3,147棟。名古屋市では、半壊1世帯、一部破損1世帯、床上浸水1,149世帯、床下浸水8,060世帯。愛知県以外合計では、全壊1棟（東京都）、半壊なし、一部破損16棟（東京都等）、床上浸水554棟（千葉県等）、床下浸水4,924棟（埼玉県等）。他に、崖くずれが愛知県38箇所、愛知県以外140箇所であった。

愛知県は8月28日11:33災害対策本部設置、8月29日0:15第2非常配備警戒体制。政府は、8月29日3:30情報連絡室設置（総理官邸内危機管理センター）、8月29日13:00政府調査団（林防災担当大臣他）の派遣。愛知県は8月29日3:15岡崎市への自衛隊の災害派遣要請。8月30日に岡崎市及び名古屋市の災害救助法の適用が決定（適用日8月28日）。

8月29日に岡崎市防災ボランティア支援センター設置（～9月7日終了）。9月1日に名古屋市災害ボランティア支援センター設置。

### 2. 現地調査の目的及び方法

平成19年度には、平成19年（2007年）能登半島地震、平成19年（2007年）新潟県中越沖地震が発災し、地震災害におけるボランティア活動についての現地調査を重点的に行った。そこで、もうひとつの重要な自然災害である水害におけるボランティア活動の状況を確認することを目的として現地調査を実施した。

平成20年8月31日（日）の日中に、愛知県岡崎市で実施した。調査場所は、岡崎市防災ボランティア支援センター（岡崎市福祉会館内、朝日町）、被害が最も大きかった伊賀川周辺（城北町、元能見町、柿田町、広幡町、伊賀町）、岡崎市保健所（岡崎げんき館、若宮町）、竜泉寺川（菘川新町）等である。

この日の天候は晴れ。被災後、29日の日中は一旦雨があがったものの、30日は雨天であったため、この日は被災後初めての片付け日和で、かつ週末という日であった。

### 3. 調査結果

＜岡崎市防災ボランティア支援センター＞

活動したいボランティアは、次の手順で活動する。（1）ボランティア活動保険への加入（自己負担で、既加入者を除く）、（2）受付（受付票の記入、名札（布製ガムテープ）を付ける）、（3）活動紹介・マ

ツチング（付箋を使って、ニーズとボランティアをマッチング）、（4）活動オリエンテーション（活動内容・場所（地図提供）・貸し出し資材の説明、リーダー決定、活動場所までの交通手段の決定）、（5）資・機材貸し出し、（6）移送（遠方の活動場所の場合、送迎車両を利用）、（7）活動、（8）帰還・資・機材返却（手の「消毒」と「うがい」も）、（9）報告受付（活動報告書に記入・提出）。

支援センターでは、特定非営利活動法人レスキューストックヤード発行のリーフレット「水害ボランティア作業マニュアル」が配布されていた。

被災者のニーズは、「お困りごとはありませんか？」というチラシの配布等を行って、被災者からの電話等によって把握されていた。

#### <伊賀川周辺>

浸水等の被害は、市内の限局された地域で起こり、それ以外の市内全般では通常の生活が営まれていた。被災者だけで片づけの目途がたっている様子の地域も見られた一方で、大勢の災害ボランティアが活躍している地域も見られた。発災からまだ日数が余り経っていないこともあり、腐敗等の悪臭はなかった。被害の激しかった地域の空き地には、大量の災害廃棄物が山積みになっていた。

姉妹都市の関ヶ原町からは、町役場のマイクロバス等で大勢のボランティアが駆けつけ、関ヶ原町と書かれたゼッケンをつけて活動していた。また、市の職員が各被災者を訪問して、被害状況の調査や相談に応じている姿が見られた。

#### <岡崎市保健所>

休日ではあったが、所長を始めとして、大勢の職員が出勤し、生活衛生課が防疫対策、健康増進課が被災者の訪問等の活動を行っていた。

防疫対策としては、消毒薬として屋外散布用にはクレゾール石けん液、屋内用には逆性石けん液（塩化ベンザルコニウム）が用意され、被災者に無償で提供されていた。不必要に飛散しないように、散布する際にはジョウロを使うように推奨していた。自治会役員が自治会分をまとめて取りに来ている姿なども見られた。消毒薬の選定については、平常時からの確立したマニュアルはなく、発災後に検討して決定したということであった。

その他に、浸水等の被害を受けた食品営業施設向け、井戸水を使用している世帯向けのチラシ等が作成、配布されていた。

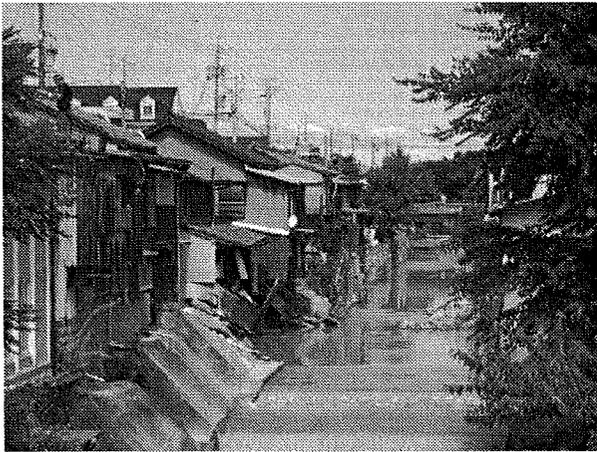
（なお、過去の水害においては、消石灰の散布が行われた例も多いようであるが、岡崎市では前述の消毒薬を選択していた。平成20年日本公衆衛生学会において、平成19年の水害対応を行った秋田県北秋田保健所での防疫対策について伺った。床下浸水用には、クレゾール石けん液、逆性石けん、消石灰を、床上浸水用には逆性石けんを、食器類には家庭用漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）を例として示したチラシを配布したということであった。こちらも、平常時からの確立したマニュアル等はなく、発災後に種々の情報収集を行って対応したということであった。）

#### <竜泉寺川等>

橋梁崩落の現場である。周辺は浸水等の住宅被害は見られず、橋梁崩落のみの被害である。調査時点で、復旧工事が開始されていた。別の河川であるが、栄町・大平町では、護岸の応急補修が建設事業者によって行われていた。

# 愛知県岡崎市での現地調査の写真

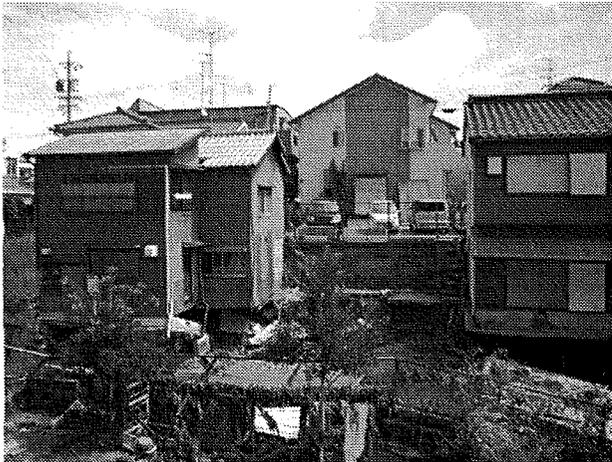
(平成20年8月31日撮影 ← 8月29日発災)



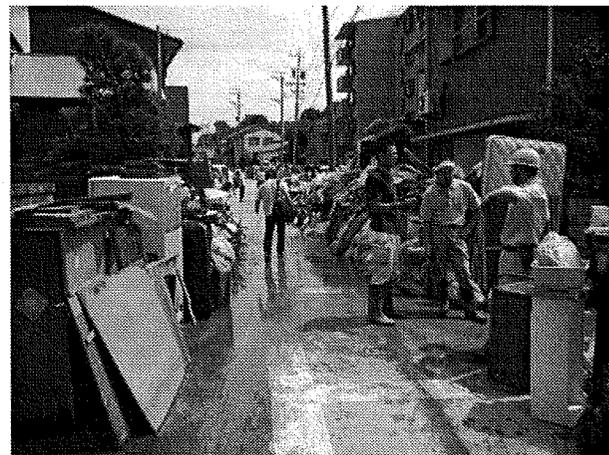
被害を出した伊賀川



水が流れ込んだ川沿いの家屋



土台がえぐられた家屋



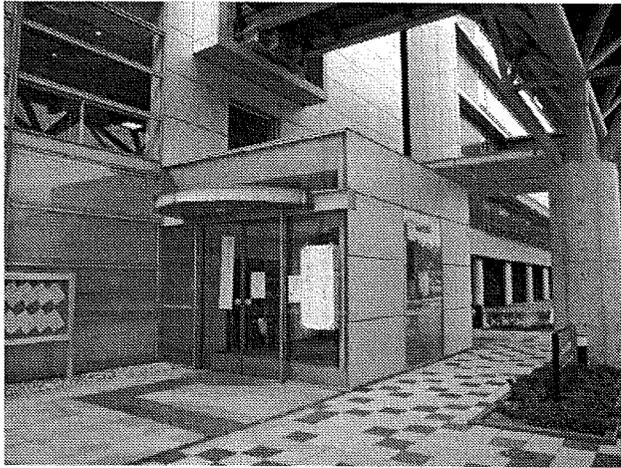
ボランティアの活動



ボランティアの活動



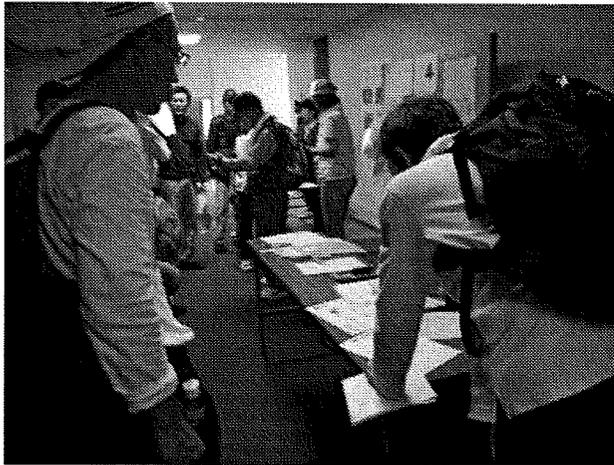
災害廃棄物の山



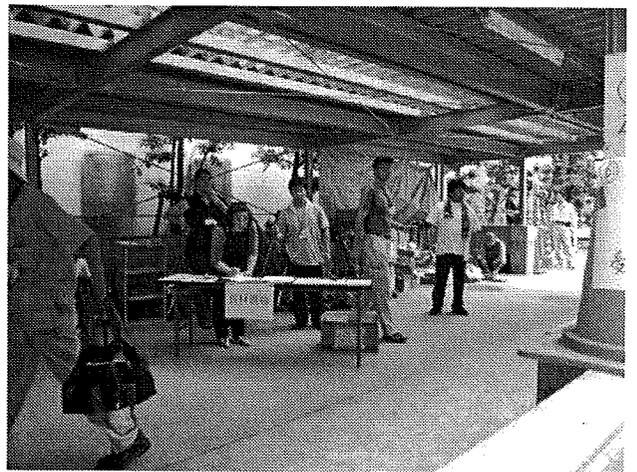
ボランティア支援センターが設置された  
岡崎市福祉会館



ボランティア活動保険受付



活動紹介・マッチングのコーナー



資・機材貸し出し



移送（活動場所まで送迎車両で）



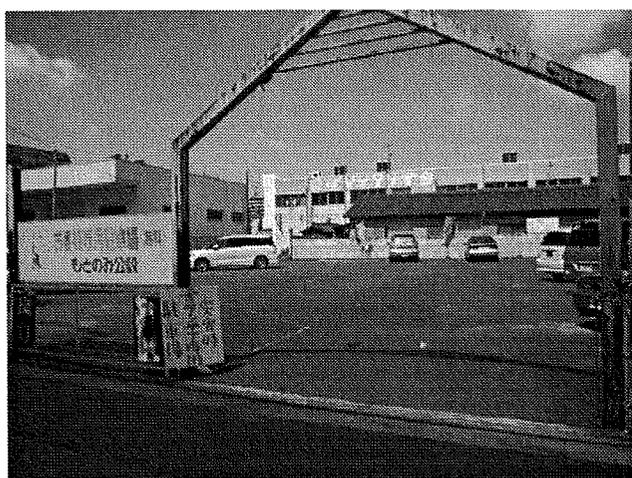
姉妹都市の関ヶ原町からのボランティアバス



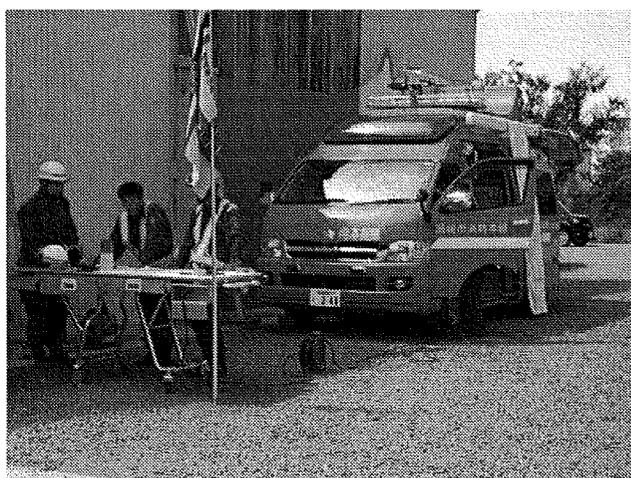
岡崎市保健所のある岡崎げんき館



保健所で被災者に提供された消毒薬



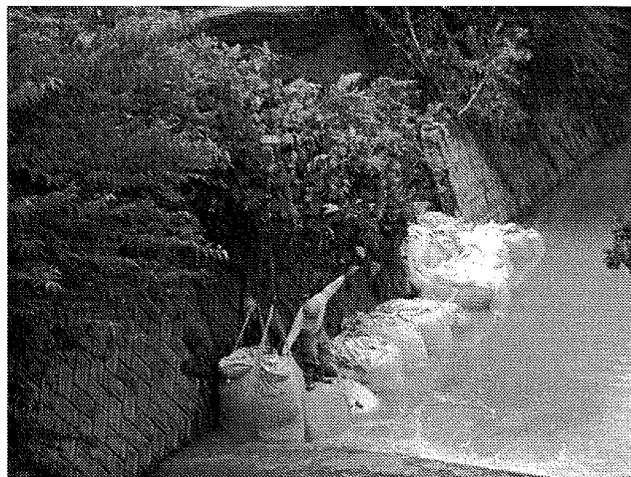
ボランティア用に提供された民間の駐車場



岡崎市消防本部レスキュー隊の現地本部



崩落した橋梁（竜泉寺川、菘川新町）



護岸の応急補修（栄町・大平町）

## II. 分担研究報告